

外来で出会う アレルギー疾患

Total Allergist 入門

気管支喘息，アトピー性皮膚炎，アレルギー性鼻炎，アレルギー性結膜炎，花粉症，食物アレルギー，薬剤アレルギーを代表とするアレルギー疾患は，一般内科診療において出会うことの多い疾患であるが，診断や治療に難渋することも多く，アレルギー疾患の既往があるだけで嫌厭されがちである．2017年にアレルギー疾患対策基本法が施行されるなど，アレルギー疾患診療の重要性は理解されているものの，日本全国でアレルギー専門医は4,000人程度しかおらず，専門医不足が指摘されている．また，アレルギー専門医は，基盤とする専門領域が内科・小児科・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科と非常に多岐にわたるため，各専門領域にまたがってアレルギー疾患全般を診ることのできる Total Allergist が育ちにくい環境にある．

専門医が不足しているため，患者が居住地域にかかわらず，等しくアレルギー疾患医療を受けられるようにするには，あらゆる診療科の医師がアレルギー疾患全般の知識を有していることが望ましい．そのためには知識の普及が必要不可欠である．アレルギー疾患治療の原則は「原因の回避」であるため，知識を備えているだけで症状の悪化を防ぎ，患者のQOLを改善させることが可能である．また，たとえ専門的な診断や加療ができなくても，知識があれば患者からの身近なアレルギー疾患に関する相談に乗ることができ，QOL改善に大いに役立つ．

一般的に，いわゆる“アレルギー疾患”とはⅠ型アレルギーを指すことが多い．Ⅰ型アレルギーは“即時型アレルギー”とも称され，アレルゲンである特定の物質（主に蛋白質）に対して特異的なIgE抗体が産生されることで引き起こされる免疫応答である．そしてⅠ型アレルギー疾患はアレルゲンに感作（アレルゲンにアレルギー反応を起こすようになる前段階の免疫状態）が成立し，アレルゲンが侵入することで，IgE抗体を介した免疫応答により，発症あるいは増悪を引き起こす病態である．

アレルゲンが体内に侵入する経路としては，経気道・経腸管・経皮膚の3つが存在

する。例えばⅠ型アレルギー疾患である気管支喘息の発症・増悪因子としては、経気道的に侵入する吸入アレルゲンが重要となる。主要な吸入アレルゲンとしては、ダニ、真菌(カビ)、ペット、花粉、昆虫が挙げられ、それらは主にハウスダストに含まれており、きわめて身近な存在であるため、その対策は重要となる。また、食物アレルギーは経腸管ルートが主のように思われるが、さまざまな花粉による経気道ルートや、食品そのもの・ラテックス製品などとの接触を介した経皮膚ルートも重要であることがわかってきた。アレルゲンの交差反応性を考慮して食事指導を行わなければ、同じ蛋白質が含まれる別の食物でも同様の反応を起こしてしまう。さらに、乳児期にアトピー性皮膚炎がある場合、成長に伴って食物アレルギー、喘息、アレルギー性鼻炎など他のアレルギー疾患を発症する確率が高くなることも明らかになっている。

前述したように、アレルギー疾患治療の原則は、「原因の回避」である。この原則は、アレルゲンが関与するあらゆるアレルギー疾患に共通であり、対症療法だけでなく、回避するための指導も併せて行わなければ、再発は防げない。また、好酸球増多、慢性蕁麻疹、血管性浮腫などは、Ⅰ型アレルギー以外が原因で起こることも多いが、身体症状としての表現型は同じであり、その他の原因についても知識を備えておくことが臨床現場では役に立つ。好酸球増多をきたす疾患としては好酸球性副鼻腔炎、好酸球性肺炎、好酸球性食道炎/胃腸炎、好酸球性肉芽腫性多発血管炎などがあり、血中好酸球数の増多を認めたら、これらの疾患の可能性も考慮しなければならない。

アレルギー疾患は、複数併存していることも多く、例えば喘息患者がアトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎を合併していることは稀ではなく、併存症のコントロールができなければ、喘息のコントロールもうまくいかない。また、好酸球性副鼻腔炎・非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)不耐症・アレルギー性気管支肺真菌症の併存が喘息難治化因子であることを踏まえれば、喘息の診療には、さまざまな周辺疾患の知識も当然必要となる。外来診療でアレルギー疾患やその周辺疾患に出会った際に、たとえ専門的な診断や加療ができなくても、知識を備えていれば原因を回避するための有効な対策を指導でき、それが患者のQOLを著しく改善させることにつながっていく。

アレルギー疾患診療においては「診断をつけること」が最も難しいが、それは同時に最も面白い部分でもある。診断をつけるためには診療科の垣根を超えた幅広い知識が求められ、知識がなければ診断の糸口すらつかめないことがある。本特集では、一般内科診療で出会うことや悩むことが多い内科・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科といった多岐にわたるさまざまな成人アレルギー疾患とその周辺疾患についての基礎知識を、経験豊富な臨床医の先生方にまとめていただいた。あらゆるアレルギー疾患に対応できる Total Allergy を目指すための第一歩として、お役立ていただきたい。

関谷 潔史(国立病院機構相模原病院アレルギー・呼吸器科)